

● 短期間で体重や外見等見た目が大きく変化した。

● 体にできた傷の理由を聞いても、説明があいまいで不自然である。

暴力を認めにくい理由 離れられない理由

3ページで示したようにDVの種類はさまざまで複雑です。自分自身に起こっていることがDVであると認めることはとてもつらいことです。「私さえ我慢すれば」と思ったり「こんな目にあっているのは私がダメ人間だから」と感じたり、現実を認めたくないと思うこともあるようです。ではなぜDVであることをなかなか認めることができない、また認めても別れたり離れたりすることができないのでしょうか？その理由についてNPO法人レジリエンス著「傷ついたあなたへ」わたしがわたしを大切にすることというところDVトラウマからの回復ワークブック」より抜粋して紹介します。

なぜ暴力を認めにくいのか

- 暴力をふるうパートナーのことを悪い人と思えない(思いたくない)
- 今の生活を続けられなくなるのは嫌だから

● 自分の人生や生き方が否定されてしまう気がするから

● 認めたら、パートナーからかろうじて得られていた小さな幸せがなくなるから

● 受け入れるにはむづがすぎるから

● こんなこと夢であってほしいから
● 恥ずかしいから etc

なぜ離れられないのか

- 金銭的理由
- パートナーが変わるかもしれない
- まだ彼を愛している
- 行き先がない
- そのうち暴力が減る・なくなるかもしれない
- 離婚したくない
- 失敗したと思われたくない
- 自分を責める気持ち
- パートナーの弁解・謝罪・涙
- 子どもがお父さんを恋しがる・会いたがる etc

これら以外にも理由は数多く掲載されています。暴力を認めたくない理由も離れられない理由も人それぞれ異なることをまずは理解しましょう。

相談された時の心構え 「あなたは決して悪くない」

大切な友人や家族からDV被害にあっていることを相談された場合、どうすればよいのでしょうか？自分の考えや価値観で受け答えをしてしまうとかえって相談者を傷つけてしまい、その後誰にも相談しなくなる場合もあります。二次被害を与えないために相談されたときの対応について考えてみましょう。

なぜ別れないの？

上記で挙げたように離れられない理由は多々あり、複雑です。別れないから悩み苦しんでいます。その一言で片づけることはやめましょう。

あなたが怒らせるようなことをしたのでは？

暴力は振るう方が100%悪いのです。暴力を振るう加害者をかばうような発言は厳に避けましょう。DVは犯罪であるという認識を相談される側も常にもっていないといけません。

大したことない

傷ついた心や体の痛みは当事者でない限りわかりません。自分の感覚や価値観で勝手に判断してはいけません。

どっつて早く 言ってくれなかったの

誰にも相談をしないという選択をする女性が多数いる中で、やっとの思いで相談をしてきたのです。その思いを汲み取り「よく話してくれたね」と言ってください。

相談された場合「なぜ？」「どうして？」は避けて、被害者の話は時間をかけてゆっくり聞きましょう。「あなたは決して悪くない」「あなたの話を信じます」「あなたの責任ではない」と何度も伝えることが大切です。「私にどうしてほしいですか？」と確認し、被害者が自分で決められるように支えましょう。自分自身で決めていくことが被害者自身の力になります。そして専門の相談窓口(6ページ参照)を案内してください。「よく話してくれましたね」「またいつでも話を聞きます」ということも伝えてください。